

## 「トピックス」 令和7（2025）年度

### 第13回 もりみん山のこども園～こもれびの森ひみつきち～②

前回に引き続き本町の就学前保育・教育を取り上げます。今回は、町の特色を活かした「自然保育」についてです。

安芸太田町では、豊かな自然環境を最大限に生かした「自然保育」を、教育の大きな柱として進めてきました。このたび、町内すべての就学前施設が、広島県の「ひろしま自然保育認証制度（Ⅱ型）」の認証を受けることとなりました。県内でも限られた団体しか取得していない認証を、町内全園・所で達成できたことは、本町の保育・教育の質の高さが客観的に認められた大変意義深い成果です。

この認証制度は、週平均5時間以上の屋外活動や、園庭だけでなく森や川、田畠など地域の自然を活用した保育の実践が求められる、非常に厳格な基準に基づいています。子どもたちは日常的に、太田川の清流で生き物を観察したり、森の中で秘密基地をつくったり、雨の日には雨音や水たまりの感触を楽しみ、冬には雪遊びを通して自然の力強さを感じています。こうした体験は、教科書だけでは得られない「実感を伴った学び」となり、子どもたちの好奇心や探究心を大きく育てています。

本町の自然保育は、「もりみん山のこども園～こもれびの森ひみつきち～」という愛称のもと、町全体を学びのフィールドとして広げています。森の妖精「もりみん」に象徴されるように、自然と共に育つことを大切にし、子どもたちが自分の力で発見し、考え、行動する姿を温かく支えています。「ひみつきち」という言葉には、子どもたちにとってワクワクする探究の場であり続けてほしいという願いが込められています。

町内4園・所（加計認定こども園あさひ、認定こども園とごうち、修道保育所、筒賀保育所）はそれぞれに特色を持ちながら、共通して「子どもが真ん中」の保育を実践しています。遊びを通して学びを深めたり、自由と責任を大切にしたり、安心できる関わりを土台に感性を育んだり、小規模ならではの温かさを生かしたりと、それぞれの取組が子どもたちの多様な成長を支え、町全体として豊かな学びの環境を形づくっています。

さらに、本町ならではの強みは、地域との深い結びつきです。地域の方々との交流や伝統文化の体験、多世代との関わりを通して、子どもたちは人とのつなが

りの大切さや、地域への誇りを自然と身につけています。こうした経験は、思いやりの心や社会性を育む大切な土台となっています。

保育の現場では、子どもの主体性を尊重し、「待つ」ことや「受け止める」ことを大切にしています。すぐに答えを与えるのではなく、子ども自身が考え、工夫し、挑戦する過程を見守ります。失敗しても大丈夫、何度もやり直せる環境の中で、子どもたちは自信と粘り強さを身につけていきます。

安芸太田町の自然保育は、特別なことをしているようでいて、実は人として大切な成長の姿を丁寧に積み重ねるものです。自然の中で遊び、仲間と関わり、心と体をいっぱい使って育つことこそが、これから時代を生き抜く力につながります。

今後も町は、「遊びこそが学び」「主役はいつも子どもたち」という思いのもと、自然を生かした保育・教育をさらに磨き続けてまいります。

町民のみなさんとともに、子どもたちの健やかな成長を支え、安芸太田町ならではの誇れる教育を未来へとつないでいきたいと考えています。ご理解とご支援をよろしくお願いします。

安芸太田町教育委員会 教育長 大野 正人

\*参考 安芸太田町「安芸太田町版自然保育活動について」

